◆登場人物

仲井戸　麻紀（なかいど　まき）

シバさん　（しばさん）

九里品　時雄（くりしな　ときお）……三蔵法師

豊臣　秀夫（とよとみ　ひでお）……悟空

鉢貝　徹子（はちかい　てつこ）……八戒

砂戸　丈（さご　じょう）……沙悟浄

鐘下　信子（かねした　のぶこ）

舞台はとある街の市営公園内に佇む公衆トイレ。
男女兼用の古いタイプで、床や壁のタイルは剥がれ、そこかしこに卑猥な落書きが描かれている。入り口ドアのガラスも割られ、段ボールで補修されているという有様。〝使用禁止〟の札はその役割を果たせずノブにブラ下がっている。男女供にトイレは1つ。男性トイレは衝立てで隠されているだけ。女性トイレもかろうじてドアはついているが、下から潜り込める程の隙間がある。
しかし、洗面台だけが妙に綺麗で、洗剤やスポンジ、タオルがきちんとたたまれている。隅にはビールケースが数個と天板になりそうな板が一枚。

一　場

訝しそうに様子を窺う鐘下信子に連れられ、仲井戸麻紀が入ってくる。
信子は市役所の制服を着て、ファイルを手にしている。麻紀はラフな格好。小さなスーツケースをひいている

信子　……想像以上に荒れてますね。最近ネットで取り上げられたんです。新たな心霊スポットとして（わざとらしく）あ、ごめんなさい。私ったら……。

麻紀　（見回しながら）気にしないで。私そういうの、全然大丈夫から。

信子　ああ……まぁ、ただの噂ですけど。

麻紀　（洗面台を見て）ここだけとっても綺麗。

信子　一応、月に1回、清掃員が入ってますから。

麻紀　……うん、悪くないかも。

信子　え？

麻紀　ここに決めた。

信子　え？え？じょ、冗談ですよね？

麻紀　たったの3週間だし。

信子　３週間はたったじゃありませんよ。

麻紀　言ったでしょ、インドでは時間に対する概念が違うんだよ。一日とか一時間とか一分とか？そういうのはもう全部一緒、みたいな？

信子　ここは日本です。

麻紀　ノブちゃんも一度行くといいよ。ホント人生観変わるから。

信子　私……やっぱり寮長に掛け合ってきます。

麻紀　え？ちょ、ちょっと待ってよ、ノブちゃん。ノブちゃん待って。

信子　正直に話せば、空いてる部屋、内緒で貸してくれるかもしれないし。

麻紀　誰にも言わないって約束した筈よ！

信子　……じゃあ……じゃあ、お金を貸します。マン喫とかなら、３週間でも大した額にはならないだろうし。

麻紀　返すあてがない。

信子　返さなくていいです。差し上げますから。だから……やっぱりこんな所、よしましょう。ね？

麻紀　（微笑み）やっぱりノブちゃんは優しいな。まるでパールヴァティーみたい。

信子　パ？

麻紀　パールヴァティー。知らない？（バッグからシヴァ神像を出し）インドの有名な神様で、シヴァ神のお妃。

信子　しゔぁしん。

麻紀　私ね、実は生活課の中で……ううん、役所の中で信用できるの、ノブちゃんしかいなかったんだ。

信子　え？

麻紀　ホントだよ。

信子　そ、それは……それは私も同じです。私もこんな風に話せるの、麻紀さんしかいなかったから。

麻紀　……ありがとう。

信子　ウチで一緒に暮らしましょう。
麻紀　え？
信子　やっぱりウチでいいじゃないですか。ね？そうしましょう？
麻紀　ダメだよ。
信子　彼の事なら気にしないでください。
麻紀　気にするよ。
信子　麻紀さんならきっと彼も嫌がりません。
麻紀　ダメだってっ！……結婚、考えてるんでしょ？
信子　……まぁ。
麻紀　（小声で）いいな。
信子　え？
麻紀　大丈夫。ホント、ここで平気だよ。（辺りを見回し）インドなら立派なホテルだよ。
信子　麻紀さん。
麻紀　しかもトイレ付き、贅沢よ。（鼻歌）
信子　食事とか、どうするんですか？
麻紀　適当にやるから心配しないで。
信子　心配しますよ。お金もないのにこんな所で、３週間もどうやって過ごすつもりですか？
麻紀　だからインドでは……。
信子　インドインドうるさいっ！
麻紀　……ノブちゃん？
信子　（我に返り）ごめんなさい……これ（ポケットから携帯電話を出し）先月結婚した妹の携帯なんですけど、家族割で、解約しないまま放ったらかしにしてて……。
麻紀　え？
信子　使ってください。

麻紀　いやでも……。
信子　受け取ってもらえないなら、使用許可書に判子押しませんよ。
麻紀　（ため息）わかったよ……（受け取り）ありがとう。
信子　いいですね？何かあったら、必ず、すぐに連絡ください。
麻紀　はいはい……それより目的欄には何て書いたの？
信子　え？
麻紀　その使用許可証。
信子　あ～、映画の撮影です。
麻紀　映画？
信子　実際によくあるんですよね。こんな風に取り壊される前の公園って、なかなか無いみたいで……あ、そうだ。私、百均に行って、必要そうなモノ買って来ますね。
麻紀　え？ちょっとノブちゃん？
信子　そのくらい、させてください。
麻紀　そのくらいって、もう充分、おんぶに抱っこに肩車だよ。ちょっと待って。

二人が出ていくと、麻紀のスーツケースだけが残る。
女子トイレのドアが開き、豊臣秀夫、蜂貝徹子、砂碁丈が現れる。
豊臣は手にビデオカメラを持ち、徹子はバスローブ姿。丈はガムテープの連なったウエストポーチを腰に下げ、大きなリュックを背負い、スケッチブックを持っている。

豊臣　……行ったか？
丈　はい。
徹子　もう、早く出てよ。
豊臣　イテテ、押すなよ。
徹子　ったく、なんで隠れなきゃならないのよ。

豊臣　仕方ねぇだろ、無許可なんだから。
徹子　許可取ってるって言ったじゃない。
豊臣　言わなきゃすぐまた「帰る」って言うだろ？
徹子　帰る。
豊臣　待て待て待て。あと少しだから付き合ってくれよ。
徹子　い～や～よ。
豊臣　こんな中途半端なままじゃ商品にならねぇよ。そんな事お前だってわかってるだろ？
徹子　じゃあすぐ許可取って来て。
豊臣　無理言うなって。
丈　今の人達、申請すれば、許可が降りるみたい言ってましたけど。
豊臣　バ～カ、ＡＶなんかに許可なんて降りる訳ねぇだろ。
丈　じゃあ普通の映画だって嘘つけば……。
豊臣　丈、お前まで面倒臭い事言い出すんじゃねぇよ。ホラ、とっとと準備しろ、撮り直すぞ。
丈　あ、ハイ。
徹子　私やらないから。（出て行こうとする）
豊臣　だからちょっと待て、待てって。
徹子　もうそんな気分じゃないもの。
豊臣　んな事言うなよ、プロだろ？いぢってりゃ、すぐその気になるって。
徹子　触らないでよっ！
豊臣　徹子～。
徹子　……一人じゃイヤ。
豊臣　え？
徹子　誰か相手してくれるなら、考え直してあげてもいいわよ。
豊臣　相手？……あ～……じゃあ、俺でいい？

徹子　や～よ。

豊臣　じゃあ……あ、コイツは？

丈　え？僕？

徹子　ちょっと、何でそうやってすぐ近場で済ませようとするのよ。

豊臣　時間がないんだよ。それに、意外とイケるかもしれないぜ。童貞男子を公衆トイレに連れ込む、淫らな熟女。

丈　でも豊臣さん、それじゃあ繋がりが……。

豊臣　繋がりなんてどうだっていいんだよ。どうせ本番以外はみんな飛ばして見るんだから。

徹子　私、年上がいいな。

丈　は？年上？

徹子　ちょっとダンディで、インテリな感じの人。ここの雰囲気とはミスマッチな感じの男に犯される、みたいなの、どお？

豊臣　そんな男優今から見つかる訳ねぇだろ。

徹子　じゃあ帰る。

豊臣　ちょちょちょ、ちょっと待てって。

徹子　（豊臣の手を払い）車の中で待ってるわね。相手が決まったら呼びに来て。丈くん、冷たい飲み物用意してくれる？

丈　あ……はい。すぐに。

徹子、退場。

少し遠く離れるのを見送って……。

丈　行きました。

豊臣　何なんだよ、あのクソ女っ！落ち目のクセにわがままばっか言いやがって。

丈　それでも一時は一世を風靡した、アダルト界の女王ですから。

豊臣　俺が当てたんだよ。俺があいつを開花させてやったんだ。

丈　何度も聞きました。でも元々は夫婦だったんですよね？

豊臣　ああ。ところが売れた途端、離婚届を突きつけてきやがった。

丈　当然だと思います。

豊臣　どうして？

丈　だって奥さん騙して、ＡＶに出演させたんですよ？

豊臣　売れたんだから文句ないだろ？

丈　売れたから離婚で済んだんだと思いますよ。普通なら、訴えられても文句は言えません。

豊臣　フンっ！訴えたいのはこっちの方だよ。版権全部持って移籍しやがって。おかげでこっちはこの５年、火の車だ。あ～、どうするよ？（スマホを出して）男優、男優、男優……。

丈　でも……ウチの経営が危ないって聞いて、こうして出演してくれるって事は、まだ豊臣さんへの愛が残ってるんですかね？

豊臣　（鼻で笑い）バカな事言うな。あいつ、１００万よこせって言ってきたんだぜ。

丈　え？１００万？

豊臣　出演料だよ。事務所通さないでやるんだから、そのくらい当然だろって。

丈　え？え？いやでもだからって、１００万はちょっと酷過ぎませんか……どうするんですか？

豊臣　決まってるだろ……踏み倒す。

丈　また？

豊臣　またとか言うな。コッチは今月中に３００万作んなきゃならないんだ。あいつにそんなギャラ払ってられるか。

丈　事務所が出てきたら面倒ですよ？

豊臣　出てくる訳ねぇ～だろ。そもそも事務所通さないでやりたいって言ってきたのはあいつの方なんだ。きっと何か裏があるに決まってる。そんな事よりお前もとっとと男優見つけろよ。

丈　はあ……（スマホを出し）あ、いやでも、見つけた所でその男優にもギャラ払えないんですよね？

豊臣　そこは払わない訳じゃない。待ってもらうんだ。

丈　また？

豊臣　だからまたとか言うなって。とにかく待ってもらえる所を当たるんだ。例えばバズーカさんとか、シシオドシさんとか……。

丈　バズーカさんもシシオドシさんも、既に3本続けて待ってもらってますけど。

豊臣　だから例えばを言っただけで……ん？（一瞬スマホから目を離すが、何かを見つけ目を戻す）おいおいおい、わ～、随分懐かしい名前が載ってるな、はは。

丈　誰ですか？

豊臣　あ～お前なんかは知らないだろうな、チョコモナカ・クリオ。

丈　チョコモナカ？

豊臣　伝説のＡＶ男優だよ。確か俺より少し年上だったと思うけど。

丈　チョコでモナカでクリ……。

豊臣　凄いだろ？

丈　どうして伝説なんですか？

豊臣　出演作品の本数が桁違いなんだよ。なんとたった1年で、５００本。

丈　ご、５０００？（スマホを奪う）１年で？

豊臣　俺も2、3回見かけただけなんだけどよ。そのスピードたるや、凄かったぜ。まさに疾風の如くって感じでさ。

丈　今はどうされてるんですか？

豊臣　引退した。

丈　え？

豊臣　活動してたのはその1年だけでよ。金が溜まったらとっとと足洗って、優雅に暮らしてるって噂だ。羨ましいよな？俺なんてもうずっとこのまんまだぜ？いやむしろどんどん下降線を辿ってる。（丈のシャツを引っ張り）そのうちホームレスと変わらない感じになってたりしてな。

丈　（振り払い）ちょっと、僕をホームレス扱いするのはやめてく

ださい……まぁ確かに、家はありませんけど。

豊臣　俺も家の家賃払うのキツくてさ、そろそろお前と一緒に事務所の倉庫で暮らそうかと思ってんだけど。

丈　え？マジっすか？

豊臣　いいかな？

丈　まぁ、僕には、拒否権なんてありませんから。

シバ　おい、何してんだ？

いつの間にか現れているシバさん。
手にはビニール袋。中には拾ってきた様子のお弁当が入っている。

丈　え？……あ、いや違うんです。僕達はその……。

豊臣　おい、動揺するな。怪しまれるぞ。

丈　怪しまれるって？

豊臣　いいから、堂々としてろって言ってんだ。

シバ　ここは俺の縄張りだぞ。

丈　え？

豊臣　……縄張り？

シバ　新参者なら仕方がないが、覚えとけ。どこの世界にもルールってもんがあるんだ。わかるな？

丈　はあ。

シバ　河原の集落に、オレンジ色のシートがかかってるテントがある。そこへ行け。

丈　え？いやでも……。

シバ　そこに行けばこの辺りを仕切ってる人に会える。悪いが俺は、誰ともつるむ気はないんでね。

豊臣　（丈と顔を見合わせ）あんた、もしかしてホームレスか？

シバ　あ？

豊臣　ここで寝起きしてんのかって聞いてんんだよ。

シバ　……なんだお前ら、違うのか？

豊臣　当たり前だろ。こいつはともかく、俺を一緒にすんじゃねぇよ。

シバ　何の用だ？

豊臣　決まってんだろ……立退き要請だよ！（乱暴に振る舞う）

丈　豊臣さん？

豊臣　ここをどこだと思ってんだ？天下の市営公園だぞ？てめぇらみたいなゴミがウロウロしてっと目障りなんだよっ！オイっ！（シバの服を掴み引っ張り回す）

丈　よしましょう、豊臣さん。

シバ　待ってくれ。お願いだ。ここを追い出されたら俺には行く所がない。

豊臣　知るかこの野郎。だったら死んじまえ。

丈　豊臣さん。

豊臣　すっ込んでろ。ちょうどムシャクシャしてた所だ。俺よ、こういう奴ら見てると無性に腹が立ってくるんだよ。ロクに仕事もしねぇでよ、それでいて妙に達観したような顔で、俺達を見下して。

丈　考え過ぎですよ。

豊臣　オラっ、（シバを蹴飛ばし）　誰の許可とって、のうのうと生きてんだ？オイっ！

信子　ちょっと、何してるんですか？

麻紀と信子がビニール袋を下げ、戻ってくる。

丈　あ……やべ。

信子　ここは公共施設ですよ？どうやって入ったんですか？

豊臣　逃げろ。

信子　待ちなさい。警察に通報します。

麻紀　ノブちゃん？

信子　誰か～、おまわりさ～ん、不法侵入です、捕まえてくださ～い。きゃ～、誰か～、きゃ～、おまわりさ～ん、不法侵入です、不法侵入ですよ～、きゃ～。

信子が大騒ぎしながら豊臣、丈、シバを外へ追い出す。
１人残る麻紀は、不安そうに外の様子を見ている。
やがて騒ぎは静まり、信子が戻ってくる。

信子　……まったく、何考えてるんでしょうね？裏側のフェンスが破られてました。大丈夫ですよ、すぐに補修しておくように手配しておきますから。（携帯を出し、メールを打つ）

麻紀　……ノブちゃん、凄い。

信子　え？

麻紀　なんか、見直しちゃった。

信子　何がですか？

麻紀　私には絶対無理、あんな男の人、３人も相手に……。

信子　な、何言ってるんですか？悪いのはあっちですよ。許可もなく勝手に入って。

麻紀　でも怖いよ。突然襲ってきたりしたら、絶対に敵わないよ？

信子　そういう時はキンタマコーンですよ。

麻紀　キ、キンタマ？

信子　私、弟が２人いるんですけどね、小さい頃よく、取っ組み合いのケンカになったんですよ。でも小学校を卒業する頃にはもう体格では敵わないじゃないですか。だから思い切り蹴飛ばしてやるんです。コーンって。

麻紀　痛いって聞くよね。

信子　面白いように動きが止まりますよ。で、前傾になったところを膝でこうっ！

麻紀　武井壮みたい。

信子　まぁ男は大抵コレで落ちますから。
麻紀　……同棲始めた彼も、そうやって落としたの？
信子　まあ……え？ちょ、ちょっと何言ってるんですか麻紀さん。その落とすとは違います。それに私は落としたんじゃなくて、落とされた口で……へへ。
麻紀　（小声で）いいな。
信子　え？
麻紀　何でもない。（買ってきたものをビニール袋から出し始める）
信子　……でも、私からすれば、麻紀さんの方がよっぽど凄いですよ。だってこれまでの生活、全部捨てちゃったんですもん。
麻紀　……。
信子　絶対真似できない。
麻紀　そうかな？
信子　そうですよ……で、どうしてインドなんですか？
麻紀　何が？
信子　あ、いや。それでどうしてインドに行く事にしたのかなぁって。
麻紀　何度か旅行して、ピンときたっていうのかな。
信子　ピンと？え？それだけで決めちゃったんですか？
麻紀　まぁ、それだけじゃないけど……ノブちゃんさ、西遊記って知ってる？
信子　へ？西遊記？……って、あの……猿と豚とカッパが、夏目雅子と、星の入った７つのボールを探すっていう……。
麻紀　全然違う。
信子　ごめんなさい。歴史は漫画で勉強した口で。
麻紀　インドに教典をとりに行く話。
信子　教典？
麻紀　中国に、三蔵法師っていう徳の高いお坊さんがいたんだけどね。
信子　あ、それが夏目雅子ですよね？最近だと深津絵里がやってた。

と言ってももう随分前か……あ、ごめんなさい。それでその三蔵法師が？

麻紀　うん、それがね……。

信子　あ、宮沢りえもやってましたよね？三蔵法師。唐沢寿明が孫悟空で、他は誰がやってたかな……あ、ごめんなさい。それで？

麻紀　……うん、それでね。

遠くでチャイムが聞こえる。

信子　あ、いけない。休憩時間終わっちゃう。すみません、私、戻りますね。これ、公園の入り口の鍵。私も合鍵持ってるんで、チェーンでグルグル巻きにしておきますね。（渡し）仕事終わったら、また顔出しますから。

麻紀　いいよ、そんな。

信子　無いとは思いますけど、もしさっきの奴らが戻ってきたら、すぐに警察に連絡してください。それか、キンタマコーンからの、顔面こうで。

麻紀　待ってノブちゃん。

信子　もうお礼ならいいですって。私と麻紀さんの仲じゃないですか。

麻紀　そうじゃなくて……そうじゃなくて……宮沢りえの時の孫悟空は、本木雅弘だよ。

信子　え？

麻紀　唐沢寿明の時の三蔵法師は牧瀬里穂だから。

信子　あ～……さすが麻紀さん。じゃあ。

信子が退場し、１人残る麻紀。

麻紀　……その時の沙悟浄は柄本明。猪八戒は小倉久寛。深津絵里の時の悟空は香取慎吾、沙悟浄はウッチャンナンチャンのウッチャン、八戒は電車男の伊藤淳史。初代悟空は堺正章、沙悟浄は

岸部シロー、八戒は西田敏行からの左とんぺい……やっぱりどれも面白かったな。

ビールケースと板でテーブルを作り、スーツケースから布を出してその上に敷くと、シヴァ神像を飾り、お香を焚き始める。

麻紀　あ～、落ち着く……ん？（カセットコンロを発見する）え？これって点くのかな？（カチカチやると火が点く）やった、お茶が飲めるじゃん。水、水、水……（ビニール袋からペットボトルの水を出し）ヤカンないかな？ヤカン、ヤカン……（洗面所でアルミの皿とスプーンを見つけ）……わ～、何コレ。ピカピカじゃん。ど～ゆ～事？

ＳＥ：猫の泣き声

麻紀　ん？……どこから聞こえるんだろう？……どこ？

と、女子トイレのドアを開けると、そこにシバがいる。

麻紀　きゃあああっ！

シバ　ああああっ！……ち、違う、違うんだ、俺は、俺はその……。

麻紀　（皿とスプーンで応戦）近寄らないで。お願い、出てってください……早く。さもないと大きな声出しますよ。

シバ　おい。

麻紀　大きな声だしたらさっきの子が戻ってきて、キンタマコーンからの顔面ガーンしますよ。痛いですよ、痛いですよ。

シバ　おいっ！その皿とスプーン……。

麻紀　え？

シバ　勝手に触るな。

麻紀　あ……いやでも……。

シバ　勝手に触るなと言ってるんだっ！（奪う）
麻紀　きゃあああっ、ご、ごめんなさい。
シバ　カセットコンロ。
麻紀　え？
シバ　そのカセットコンロも……俺のだ。
麻紀　あ……ああ……はい、すみません。お返しします。
シバ　その下のビールケースと、板も。
麻紀　ごめんなさい。（お香をどけ、布をはがす）
シバ　あと……。
麻紀　あと？
シバ　……ここも。
麻紀　ここ？……ここはダメです。ここは……ここは市の公共施設ですから。そして今日から3週間、申請が受理されたので、使用権利は私にあります。
シバ　俺のねぐらだ。
麻紀　そんな事言われても私には関係ありません。
シバ　ここを追い出されたら俺は行く所がない。
麻紀　それは私も同じです。
シバ　何？
麻紀　私は……私は全てを捨てて、ここへ来たんです。
シバ　まさかあんた、ここで……暮らすつもりか？
麻紀　3週間限定ですけど。
シバ　冗談だろ？……さっき一緒にいた、あの女も来るのか？
麻紀　彼女にはウチがあります。
シバ　だったらそこへ行けばいいじゃないか。
麻紀　行けない事情があるからここに来たんです。

シバ　事情？

麻紀　はい。

シバ　じゃあ、あるんじゃないか。

麻紀　はい？

シバ　あんたにはまだその〝事情〟ってもんが残ってる。

麻紀　おっしゃってる意味がよくわからないんですけど。

シバ　捨てきれてないと言ってるんだ。全然、何も。悪い事言わん。すぐに元の生活に戻るんだ。

麻紀　で、できません。

シバ　なぜだ？

麻紀　だからその……色々……複雑な事情があって。たったの三週間です。

シバ　三週間なんて永遠と同じだ。

麻紀　……え？

シバ　俺達みたいな生活をしてたら、一日も、一時間も、一分も、どれも同じに感じる。

間。

麻紀　あの……こんな事言ってはアレですけど。暖かい季節ですし、外で暮らせば……。

シバ　外で暮らせば荷物を盗まれる。荷物が無くなれば死ぬ。

麻紀　し、死ぬ？

シバ　大袈裟な話じゃないぞ。俺達はいつだって死と隣り合わせで生きてるんだ。

麻紀　……さっきの子、市役所の生活課に勤めてるんです。良かったらあの子に相談して、もっと快適な環境の……。

シバ　何度も相談したさ。けどあちこちタライ回しにされて、電車に乗る金もなくなった挙げ句、この様だ。

麻紀　（スーツケースを漁り、コンパクトＤＶＤデッキを出し）コレ、差し上げます。売ればいくらかにはなるかと……。

シバ　突然そんな金目のモノなんて持ってたら仲間から袋叩きにされちまう。これまで何人も殺されて、川に沈められたのを見てきたんだ。

麻紀　じゃあ……じゃあどうしろって言うんですか？……私は、絶対に出て行きませんよ。

間。

シバ　このカセットコンロ、貸してやる。

麻紀　え？

シバ　中のボンベも使い放題だ。タダで分けてくれるところ知ってんだ。それと、その板とビールケースも、貸してやる。

麻紀　え？え？でも……。

シバ　昼間は殆ど戻ってこない、でも夜はここで寝る。

麻紀　ちょ、ちょっと待ってください。

シバ　何もしねぇよっ！……絶対……タイプじゃないし。

麻紀　無理です。

シバ　だったら今から公園の外に出て、大声で叫ぶだけだ。（外に向かって）ここの公衆トイレの中に変な女がいるぞ、３週間ここで暮らすって言ってるぞ～～～っ。

麻紀　やめてください。

シバ　じゃあ交渉成立だ。

間。

麻紀　どうせ２、３日もすれば、根をあげると思ってますね？

シバ　２、３日もかかるもんか。

麻紀　何もしないって言いいましたよね？

シバ　しないよ。

麻紀　本当に……本当に何もしませんか？

シバ　ああ。（シヴァ像を指し）その神様に誓ってもいい。

暗転。（この間に転換）

舞台一隅に徹子が現れる。手には携帯電話とバッグ。バスローブから派手な洋服姿にかわっている。

徹子　（バッグの中を漁りながら）……もしもし？ちょっと聞いてるの？こっちにだって予定ってもんがあるのよ。そんなに何日もひっぱれたら、スケジュールが狂っちゃうじゃない。あのさ、1つ確認しておきたいんだけど、ギャラ払う気ある？……あそ。じゃあさ、契約書作ってくれる？……個人だろうと法人だろうと、普通は作るでしょ？契約書作ってくれなきゃ撮影の続きはないわよ。わかった？……それより私の化粧ポーチしらない？携帯用の……どこやったのかしら？

徹子の姿が消えると、別の一隅から豊臣と丈が現れる。

丈　徹子さん、何て？

豊臣　契約書作れって。

丈　契約書？

豊臣　踏み倒そうとしてんのバレたかな？

丈　流石、元奥さん。

豊臣　悪いんだけど、お前あいつんとこ行って、なだめておいてくれないか？

丈　またですか？

豊臣　だからまたとか言うんじゃねぇって言ってるだろ。

丈　でも……。

豊臣　なんかよくわかんねぇけど、あいつお前の事は気に入ってるみたいだし。

丈　豊臣さんはどうするんですか？

豊臣　ん？……俺はちょっと、気になる事があってよ。

丈　気になる事って？

豊臣　まぁ、結局は金の工面だ。車だけ事務所に戻しておいてくれ。明日の朝また連絡する。

丈　了解。

二人の姿が消える。

二　場

舞台は数時間後。
夕刻を迎えた為、少し薄暗い空間で、ランプに火が灯る。
板とビールケースによるテーブルとイスは、シバがいつもしているようにしつらえられ、チャイの入ったカップが２つ乗っている。シヴァ像は洗面台の側に立てられている。

シバ　……あ～、聞いた事がある。え～と、何とかっていうボランティアの団体だ。ホラ、海外、ナントカ、協力隊みたいな感じの。
麻紀　ナントカでいいです。
シバ　それでインドへ行こうと考えたのか。
麻紀　まぁ。
シバ　ところがその……カーズ……バース？
麻紀　マーズ。
シバ　その伝染病が蔓延して、３週間の入国規制が敷かれた。
麻紀　はい。
シバ　家財道具は全て処分しちまってる上に、財布も盗まれ、二進も三進も行かなくなったという訳か……警察には届けたのかい？
麻紀　もちろん。でも、戻ってくる可能性は低いと……。
シバ　だろうな。しかし、どうしてもっと周りの人間に頼らない？
麻紀　頼ったからここにいるんです。
シバ　あの女じゃなくて、もっといるだろ？他に、家族とか親戚とか、恋人とか。
麻紀　家族はいません。親戚も……そういうの全て、引っ括めて捨てたんです。
シバ　なるほど、引っ込みがつかなくなったという訳か。
麻紀　え？

シバ　カッコ良く世間と縁を切ったのに、今更どの面下げて戻ればいいか、わからないだけだろ？

麻紀　違います。

シバ　（ボソっと）いるいる、こういう女。

麻紀　何か言いましたか？

シバ　面接とかなかったのか？

麻紀　？？ボランティアですか？ありましたよ。ちゃんと受けて合格しました。

シバ　酷いな。俺が面接官だったら、絶対こんな重い女、不合格だ。

麻紀　重い？

シバ　どうかしてるよ、その団体はアレだな。無責任だ。ボランティアとか考える前に、人の将来を考えるべきだよ。

麻紀　将来ならちゃんと考えてます。

シバ　じゃあどうするんだ？日本での生活全部捨てて、インド行って、その後は？

麻紀　その後？

シバ　帰ってきてからの事だよ。

麻紀　帰ってくるつもりはありません。

シバ　はあ？

麻紀　全てを捨てたんです。帰ってくる場所なんていりません。

シバ　……あ～、そうか。

麻紀　はい。

シバ　うん。いや、なかなか筋が通ってる。

麻紀　（照れて）どうも。

シバ　筋金入りの重い女だ。

麻紀　あの、さっきからその〝重い〟っていうのがいちいち癇に障るんですけど。

シバ　なら良かった。まだ見込みがある。

麻紀　え？

シバ　いいか、よく聞け。こいつはきっと、神様がくれた最後のチャンスだ。

麻紀　チャンス？

シバ　今一度、考え直す事だ。

アルミの皿に、お弁当の中身を移すシバ。

麻紀　……何て呼んだらいいですか？

シバ　ん？

麻紀　お名前。

シバ　シバだ。

麻紀　島田？

シバ　シ・バ。芝生のシバ。柴犬のシバだ。

麻紀　あ～、え？芝生のシバと、柴犬のシバは字が違いますけど。

シバ　どっちでもいいよ。名前なんてもうどうだっていい。

麻紀　……シバさん。（飾ったシヴァ像を見る）

シバ　何だよ？

麻紀　いえ、何でも……じゃあ、今度はシバさんの番です。

シバ　は？

麻紀　どうしてここで、こんな生活をされてるんですか？

シバ　ちょ、ちょっと待てよ。どうして俺があんたにそんな事を話さなきゃならない。

麻紀　だって私の事は、根掘り葉掘り聞いてきたじゃないですか？

シバ　根掘り葉掘りなんて聞いてないだろ。あんたが勝手にペラペラ喋りだしたんだ。

麻紀　ペラペラなんて喋ってません。

シバ　喋ったじゃないか。
麻紀　喋ってません。どちらかというと……ポツリポツリといった感じで。
シバ　どっちだっていいよ。とにかく俺には喋る事なんてない。
麻紀　そんなのズルいです。
シバ　ズルくても構わん。俺はエセ不幸話で、同情をひくなんてまっぴらだ。
麻紀　私は別に同情してもらいたくて喋ったんじゃありません。それに……エセでもありません。
シバ　ど～だか。
麻紀　嫌な人ですね。
シバ　やっと気づいたかい？
麻紀　……家族とか、いないんですか？
シバ　喋らんと言った筈だ。
麻紀　じゃあ、喋らなくていいです。表情から読み取ります。
シバ　何？
麻紀　ん～……元は学校の先生をやっていた。進路指導を担当していて、吹奏楽部の顧問。奥さんと男の子が二人。
シバ　（鼻で笑い）全然違う。
麻紀　ごく平凡な生活を送っていたある日のこと、通勤電車でチカンと間違われた。
シバ　何だと？
麻紀　そこからあなたの人生は音をたてて狂いはじめた。やってません、チカンなんてやってませんと訴えたところで誰も信じてくれない。妻と子供にも逃げられ、気づけば路上に座りこみ、時が過ぎ行くのをただジッと見送るだけの生活……。
シバ　テレビドラマの見過ぎだよ。
麻紀　違いますか？
シバ　当たり前だ。

麻紀　おかしいな。そういう顔してるんだけどな。

シバ　どういう顔だよっ！……いやでも……まぁ、大体そんな感じだ。

麻紀　ホラやっぱり当たってるんじゃないですか。

シバ　違う。内容はほぼ丸々大違いだ。ただ……最後の……気づけば路上に座りこんで、時が過ぎ行くのをただジッと見送るだけの生活ってとこだけは、合ってる。

麻紀　あ～。

お皿を持って外に出るシバ、口笛を吹くと猫の泣き声が聞こえる。

ＳＥ：猫

麻紀　え？自分で食べるんじゃないんですか？

シバ　まぁな。（中に戻ってきて）……あんたはどうせアレだろ。恋人にフラれたとか、その類いのクソみたいな理由でインドへ行くんだろ。

麻紀　え？ち、違います。

シバ　いいや違わない。女が生活を一変させるのは、恋愛絡みと相場が決まってるんだ。相手は仕事の同僚だな。上司か？

麻紀　……。

シバ　（笑い）おそらく結婚の約束までしてたな。それがどうして破局を向かえてしまったのか？……ん～、実は相手が、妻子持ちだったとか？

麻紀　やめてください。

シバ　違うな。そんな事で生活捨てる奴はいない……あ、そうか、あんたの方に何か問題があったんだな。相手の男に何か隠してた。それがバレたんだ。例えば……過去にいかがわしいお店で働いてたとか……そうだ、ＡＶに出演してたとか？

麻紀　……。

シバ　わ～お、大当たり？

麻紀　自ら進んで出た訳じゃありません！

シバ　あ～、盗撮系の……。

麻紀　もう……随分昔の事です。たった一回の過ちと言いますか……。

シバ　どうしてそれがバレたんだ？

麻紀　わかりません。でもある日、所内の掲示板にビラが貼られていて……。

シバ　ははは、やっぱ凄いな俺。

麻紀　え？

シバ　ピタっと当てちゃった。

麻紀　……。

シバ　あれ？どうしてわかったんですか？とか聞かないのか？……へへへ……俺、ゲーム会社の社長やってたんだよ。

麻紀　ゲーム会社？

シバ　カッコ良く言えばＩＴ系？推理ゲームで１本当てたんだ。昔から推理小説が好きでな、いっぱい勉強したよ。人間の行動心理とか、タイプとか。まぁタイプっつっても所詮は統計学に基づくんだが、例えば星座占いは１２種類のタイプに分けられるだろ？血液型なら４種類だ。でも結局行き着く所、人間はたった２種類のタイプしか存在しない。わかるか？男と女だ。わかるだろ？いるいる、こんな女。いるいる、こんな男。

麻紀　あの……それで、何が言いたいんですか？

シバ　誰だって１つや２つ、隠しておきたい過去がある。あんたはそれが明るみになった。それだけだ。

麻紀　もしかして、慰めてくれてるんですか？

シバ　思い上がるなと言ってんだ。あんたは別に特別じゃない。もちろん俺も、この世の全ての人間は、所詮２つのタイプに分けられる平凡な存在だ。

麻紀　……。

シバ　納得いかないって顔してるな。私の抱えてる問題はそんな簡単じゃない。みんなそう思うんだよ……あ、そうか、複雑な事情があると言ってたな。確かにコレじゃ単純過ぎるか。面白い、どれだけ複雑なのか、そいつも当ててやろう。

麻紀　え？

シバ　う～ん……生活を捨てるほど理由が、恋人だけじゃないとすると、残されるのは……家族か。

麻紀　やめてください。

シバ　わかった。そのＡＶに出たのは家族の誰かが関わってるな。誰だ？親父か？それともおふくろさんか？もしかして兄弟が借金作って、その肩代わりで……。

麻紀　やめてって言ってるでしょっ！

シバ　……。

麻紀　あなたに何がわかるんですか？あなたみたいな人に……私の何が……。

ＳＥ：猫がもの凄い声をあげ、アルミの皿のひっくり返る音がする。

豊臣　あ、あ～あ～あ～、何だよコレ、汚ねぇな。

シバ　おい、何をしてる？

飛び出そうとしたシバの胸ぐらを掴み、ゆっくりと豊臣が現れる。

麻紀　？

豊臣　ビンゴ、大当たりだよ。お前、そんだけ推理力があるのに、どうしてホームレスなんてやってんだ？……（シバの髪の毛を掴み）何が１本当てただよ。きっと死ぬ程つまんねぇ、クソゲーだったんだろ？だから会社潰してここにいるんだろ～が。

麻紀　ちょっと何するんですか？

豊臣　（麻紀の肩を抱き寄せ）よう姉ちゃん、久しぶりだな……忘れたとは言わせねぇぜ。さっきすれ違った時、お前さんもピンときた筈だ。

麻紀　離してください。

豊臣　ありゃ何年前だ？まだ１０年も経ってないと思うけど。バカ兄

貴は元気か？

麻紀　知りません。

豊臣　知りませんて事はねぇ～だろ。お前さんが身体張って助けてやった実の兄貴だ。へへへ、凄いだろ俺の記憶力。一度ヤッた女は忘れねぇんだ。

麻紀　やめてください。

豊臣　（シバへ）おいっ！何見てんだ……表に出てろ。

シバ　し、しかし……。

豊臣　殺されてぇのか？

シバ、走って出て行く。

麻紀　シバさんっ！

豊臣　おっと、逃がすもんか。

麻紀　シバさん、待って。

豊臣　あんなゴミが助けてくれる訳ねぇだろ。自分の事しか考えてねぇ、社会のクズだ……なぁ、いいだろ？協力してくれよ。あの時と同じ１００万でどうだ？ん？

麻紀　ふざけないで。

豊臣　ふざけてなんかないさ。実は今ウチぴ～ぴ～でよ、１本でも多く撮って、金作んなきゃならねぇんだ。パパッと１５分。それで１００万だ。

麻紀　いや、誰か助けンンンン～～。（口を塞がれる）

豊臣　いいぜ、その暴れる感じ……カメラはそっちのトイレの、窓の外に設置しておいた。オラ、こっちへ来いっ！

女子トイレへ連れ込まれる麻紀。

合間合間に「いや」「離して」「助けて」などの叫び声が聞こえるが、さるぐつわをされ、モゴモゴといった声に変わる。

そこへシバが信子と供に戻ってくる。
シバの手には汚れたアルミの皿。

信子　麻紀さん？……どこですか？麻紀さん？（声のする方へ行き、ドアを開け）ちょっとあんた、何してんのよっ！

ズボンをおろした豊臣が引きずり出される。

豊臣　あ、何だオイ。離せ……オイッ！
信子　キンタマコーン！
豊臣　ウッ……（前傾になる）
信子　からの……せいやっ！（豊臣の顔面にヒザを入れる）

吹っ飛ぶ豊臣。

豊臣　（鼻とズボンを押さえ）な……何て女だ。
信子　今度来たら、こんなもんじゃ済まないわよ！
豊臣　くそっ、覚えてろ……。

走って逃げる、豊臣。

信子　（女子トイレに入り）麻紀さん？大丈夫ですか？麻紀さん？しっかりしてください。

服を破られ、髪の乱れた麻紀がゆっくりと出てくる。
シバは麻紀に声をかけようとするが、目も合わない。

信子　……警察、呼びますか？

麻紀　ダメ。

信子　でも……。

麻紀　役所のみんなに、私がここにいるってバレちゃう。

信子　誰も気にしませんよ。伝染病で入国規制がかかって、出発が延期になった。それだけの事じゃないですか。

麻紀　……ノブちゃん、私が誰と付き合ってたか、知ってる？

信子　え？

麻紀　ごめん。言ってなかったよね。

間。

信子　（その場を繕う様に）おかしいですね、フェンスの補修、頼んでおいたんですけど。

シバ　他にもあるから。

信子　え？

シバ　この公園、フェンス張り巡らせたところで、他にもたくさん抜け道があるから。

信子　……何であなたがまだここにいるんですか？

シバ　え？

信子　出て行ってください、早く。

シバ　そんな、助けを呼びに行ったじゃないか。

信子　だから何ですか？不法侵入に変わりはありません。警察呼びますよ。

麻紀　ノブちゃん……いいの。その人は。（スーツケースから上着を取り、羽織る）

信子　麻紀さん？

麻紀　その人はここに居ていいって、私が言ったの。私が出て行くまでの３週間だけ、目を瞑って。

信子　でも。
麻紀　お願い。

間。
麻紀はしゃがみ込み、膝を抱え壁にもたれる。

信子　お弁当、買ってきました。
麻紀　要らない。
信子　あ、じゃあ外で何か食べますか？気分転換に……。
麻紀　（首を振る）
信子　……麻紀さん、やっぱりウチに来ませんか？ウチに来れば、もうあんな目に遭う事もありません。
シバ　その方がいい。
信子　麻紀さん？
麻紀　まだ……まだ半日も経ってない。
信子　え？
麻紀　この程度で根をあげたら、また笑われちゃう……いるいるこんな女。やっぱり筋金入りの、重い女だって。
シバ　いや、ちょっと待ってくれよ。
信子　（シバへ）何か言ったんですか？
シバ　あ～いや、俺はその……別に……。
信子　少し休みましょう。落ち着くまで私、側にいます。
麻紀　ありがとう……ノブちゃん……ありがとう。

信子が麻紀に寄り添い、壁にもたれて眠る。
シバはその場から立ち去る。

三　場

舞台は麻紀の夢の中。
八戒と沙悟浄が現れる。

八戒　ホラ、もう何してるの？早くして。
沙悟浄　ちょっと待てよ、そんなに引っぱらないで。
八戒　……ふふふ、上手くマイたみたいね。
沙悟浄　大丈夫かな？勝手な行動とると、またどやされちまうぜ。
八戒　私、嫌いなのよ、あのサル。
沙悟浄　それ、わざわざ言わなくてもみんなわかってるよ。
八戒　アタイはアンタが好き。この訳のわかんない旅も、アンタがいるからついてきてるのよ。（抱きつく）
沙悟浄　ちょ、ちょっとマズイって。こんな所見られたら……。
八戒　構わないでしょ。それとも豚は嫌い？
沙悟浄　そ……そんな事ないよ。
八戒　じゃあちゃんと言って、俺はチャーシューが大好きだって。
沙悟浄　お、俺は……チャーシューが大好きだ。
八戒　メス豚が大好きだ。
沙悟浄　メス豚が大好きだ。
八戒　アハッ♡
沙悟浄　でも、本当に一番好きなのはキュウリなんだけど。
八戒　あん、もう意地悪ね。でもそういう正直な所が好きよ。

二人がキスしようとした時、麻紀の目が開く。

麻紀　何してるんですか？
二人　え？

わーきゃー言いながら、離れる二人。

沙悟浄　……人だ。こんな所に人がいるぞ。
麻紀　もしかしてあなた、猪八戒？それに、こっちは沙悟浄？
八戒　何だお前、アタイ達を知っているのか？
麻紀　ええっ？何でメス？八戒はオスでしょ。西田敏行からの左とん平じゃなきゃ。
八戒　とん平？
麻紀　あれ？ちょっと待って……あなた、どこかで会った事が。
沙悟浄　何を言ってるんだ、こいつは？
八戒　わかんない。
沙悟浄　おい、お前。
麻紀　若い。沙悟浄若過ぎる。ええええっ？岸部シロー感ゼロじゃん。ウッチャン的な素朴さもないし。ダメダメダメ、話にならない、キャスティングミス。
悟空　おいっ！お前ら、そんなとこで何やってんだ？
沙悟浄　兄貴。
八戒　ちっ、見つかったか。
悟空　勝手な行動は慎め。
麻紀　ウソでしょ？なんでこいつが悟空なの？
悟空　ん？何だお前は？
沙悟浄　人間だよ。
悟空　人間？
八戒　しかもメスみたい。

悟空　メスの人間？……本当かよ。おいおいおい、久しぶりに見たぞ。（匂いをかぎ）ははは、化粧なんてしてるから、折角の美味そうな香りが消えちまってるじゃねぇか。

麻紀　ちょ、ちょっと、何するんですか？

悟空　おい、お前ら。この事はお師匠様には内緒だぞ。

二人　は～い。（背中を向ける）

麻紀　え？何するの？やめて、やめて、離して。

悟空　騒ぐなっ！オイラは人間のメスの肝が大好物なんだ。

三蔵法師　おやめなさい。

悟空　え……ウッ……イタ、イタタタ、アイタタ。（頭を押さえ悶える）

そこへブツブツと経を唱えながら、三蔵法師が現れる。

八戒　お師匠様。

悟空　勘弁してくれ、お師匠様。オイラが悪かった。つい……つい出来心で……アアアアアッ！

三蔵法師が唱えるのをやめると、悟空の痛みが治まる。

三蔵法師　人に危害は加えないと、約束した筈ですよ。

悟空　も、申し訳ありません。（土下座）

沙悟浄　大丈夫か、兄貴。

三蔵法師　（麻紀へ）私の弟子が、大変なご無礼を。おケガはありませんか？

麻紀　……え？……もしかして、時雄…さん？

三蔵法師　私は唐の国から来た玄奘（げんじょう）という名の僧侶です。天竺を目指し、この者たちと旅をしておるのですが、よろしければ家までお送りしましょう。

麻紀　　え？……あ、いや、だ、だ、大丈夫です。

三蔵法師　　遠慮する事はありません。

悟空　　（指笛を吹こうとする）

三蔵法師　　悟空、キン斗雲を呼ぶのはおよしなさい。

悟空　　え？何故ですか？その方が早くて楽だし。

三蔵法師　　予算の都合が。

八戒　　予算？

沙悟浄　　参りましょう。

麻紀　　え？いや、でも、私は別にそんな……時雄さん？時雄さんですよね？

三蔵法師　　ははは。

麻紀　　笑ってないで返事をしてください。時雄さ～～～ん。

麻紀を連れ、皆が退場する中、暗転。

（この間、信子は放置？）

四　場

翌朝。
ＳＥ：トイレの流れる音。
女子トイレから麻紀が出てくる。手には派手な化粧ポーチ。

麻紀　（外に向かって）終わりました。

返事はない。

麻紀　あれ？終わりましたよ。

ＳＥ：猫

麻紀　あ、良かった。ちゃんと戻ってきたんですね。

シバが入ってくる。

シバ　まぁな……それより、俺はいちいちあんたがトイレに入る度に、こうして外に出てなきゃならないのか？

麻紀　嫌なら出てってください。

シバ　……ちっ。二言目にはそれだ。

麻紀　コレ（化粧ポーチ）誰のですか？

シバ　ん？知らんな。

麻紀　（女子トイレの）中に置いてありました。

シバ　誰かの忘れ物じゃないか？

麻紀　ノブちゃんかな？（中を見て）わ～、ブランドものばっかり。

シバ　それで？
麻紀　え？
シバ　さっき話してた、夢の続き。
麻紀　……あ～。
シバ　昨日襲ってきたＡＶ監督が孫悟空で、元彼が三蔵法師？
麻紀　はい。
シバ　流石にそんな夢見る女は、いるいるとは言えないな。
麻紀　ですよね。
シバ　普通は白馬に乗った王子様を、夢見るもんだが……。
麻紀　三蔵法師も白馬に乗ってますよ。
シバ　え？
麻紀　夢には出て来きませんでしたけど、玉龍（ぎょくりゅう）という龍が、馬に姿を変えていて、ドラマではおひょいさん、藤村俊二が演じてました。
シバ　はあ……。
麻紀　新・西遊記の時は、柳沢慎吾でした。その他のシリーズでは特にキャスティングされてなかったな、多分予算の都合で。あ、柳沢慎吾の時は玉龍ではなく白龍という名前に変わってたんですけどね、それで……。
シバ　ちょ、ちょっと待った待った。どうした突然。
麻紀　何がですか？
シバ　突然そんな、息せき切って。
麻紀　あ……ごめんなさい。私、西遊記の話になると、つい興奮しちゃって。
シバ　はは……ますます変わってるな。
麻紀　はい。変わった夢でした。ふふ……あははは。
シバ　今度は何だ？
麻紀　だって……他の二人がちょっと。

シバ　他の二人？

麻紀　沙悟浄と猪八戒。沙悟浄の方は、チラッとしか見てないから、よく覚えてないんですけど、多分昨日、あのＡＶの男にくっついてた若い人だと思います。でも八戒が……ふふふ、あはははは。

シバ　誰だったんだ？

麻紀　幼稚園からの幼馴染です。小中高と、ずっと同じクラスで、凄いお金持ちの家の子で、幼心に劣等感を感じたのを覚えてます。

シバ　それでいてイケメンだったりするんだろ？

麻紀　女の子です。

シバ　女？猪八戒が女？

麻紀　はい。それがおかしくて……でもその子、高三の時にお父さんの会社が倒産しちゃって、生活が激変しちゃったんですよね。

シバ　あ～、よくある話だ。神様ってのはとことん平等だからな。

麻紀　その頃、丁度私も色々あって……何て言うんですかね？ずっと同じクラスでも話すらした事なかったのに、その時だけピタッと同じゾーンに存在し合って……。

シバ　類は友を呼ぶって奴だな？

麻紀　はい。

シバ　そしてお互いの傷を舐め合った。

麻紀　否めませんね。あの時はホント、彼女には相当救われましたから。

シバ　でも心の底では、このメス豚めって思っていた。

麻紀　思ってません。

シバ　夢に見ておいて何を言ってるんだ？

麻紀　それは……何でだろう？でもきっと心のどこかに引っかかってたんだと思います。

シバ　連絡は？

麻紀　（首を振り）高校卒業してからだから、もう２０年近く会ってません。

間。

シバ　……話を変えよう。

麻紀　どうしてですか？

シバ　あんたはあまり過去を振り返らない方がいい。過去の話になると、途端に顔色が曇る。昨日はその……悪かった。よく知りもしないのに、適当に当てずっぽうを言って。

麻紀　……面白い方ですね。

シバ　ん？

麻紀　イイ人なのか、嫌な人なのか、わかりません。

シバ　よくいるタイプの男だ。

麻紀　２種類しか存在しないんですよね？

シバ　その通り。

少し微笑む二人。

麻紀　仕事はいいんですか？

シバ　ん？ああ……ちょっと今日は身体がダルくてな。（外を見て）それに暑くなりそうだから、昼過ぎからボチボチ始めるよ。

麻紀　何をされてるんですか？

シバ　色々やってる。古雑誌集めたり、鉄くず集めたり、びんとか缶とか……。

麻紀　あ、収集系の。

シバ　そうそうそう。

麻紀　きっと、役所が委託してる民間の下請けが、更に下の方で分散化してるんでしょうね。

シバ　さあ、そういうのは、よくわかんないけど。

麻紀　ペットボトルとかは？
シバ　たまに集めるよ。
麻紀　あれは今、問題になってるんですよね。
シバ　問題？
麻紀　リサイクルのコストが高くて、行政の方でも処分のし方で意見が別れてるみたいで。結局民間の倉庫を借りて保管して、経費が嵩むといった、負のスパイラルい陥ってるのが現状なんです。
シバ　へ～。
麻紀　……はい。
シバ　あのさ。
麻紀　はい？
シバ　やっぱり話、元に戻そうか？
麻紀　どうしてですか？
シバ　全然面白くないよね？ペットボトルの負のスパイラルとか、訳わかんないし。
麻紀　ごめんなさい。
シバ　いや、あんたが謝る事はない……西遊記の話を聞かせてくれよ。
麻紀　（顔が明るくなる）
シバ　どうしてそんなに好きなんだ？
麻紀　（暗くなる）
シバ　あ……やっぱりいい。やっぱり、そろそろ仕事に行こうかな。
徹子　やだ何コレ、ウンコ踏んじゃったみたい。
シバ　ん？
丈　何やってるんですか、も～。
麻紀　誰？
徹子　どうしよう、丈くん。取って、取って……コレ、何のウンコ？

徹子と丈の声がして、二人が入ってくる。
麻紀とシバは辺りにあるモノを取って臨戦態勢に入る。

丈　あ……豊臣さんの言った通りだ。
シバ　お、お前ら、な、何の用だ？
丈　安心してください。僕達は決して、危害を加えたりなんてしませんから。
徹子　何ビビッてんのよ。
丈　だって豊臣さん、鼻の骨にヒビが入ったって言ってましたよ。
徹子　フン……誰がやったの？（麻紀へ）あんた？
麻紀　ち、違います。
徹子　じゃあ、あんた？
シバ　違う。
徹子　まぁ、別にあんな奴、どうなったって私には関係ないんだけど……化粧ポーチ見なかった？このくらいの。私達それ探しに来たの。
麻紀　え？化粧ポーチ？……あ、コレ。
徹子　あ～それそれ、やっぱりここだった。
丈　良かったですね。じゃあ、行きましょう。失礼しました。
徹子　ちょっとちょっと、ちょっと待ってよ。何でそんなに急ぐのよ。
丈　だって。
徹子　誰もいなかったらここで一回ヤッていこうって言ったじゃん。
丈　ちょっとバカ、しっ。
徹子　悪いんだけどさ、あんた達、少しだけ表に出ててくんない？
丈　徹子さん！
徹子　１０分で済むから。
麻紀　テツコ？

丈　もういいから行きましょう。

徹子　あ、怒った。カワイイ、丈くん。確かに最近は１０分じゃ済まないもんね～。大人になりまちたね～、よしよし。

丈　徹子さん！ホントに怒りますよ。

麻紀　テッちゃん？

徹子　……え？

シバ　ん？

麻紀　……テッちゃん……だよね？

徹子　誰？

麻紀　私だよテッちゃん……麻紀。

徹子　麻紀？……麻紀って……え？あの……仲井戸麻紀？

麻紀　テッちゃん。

徹子　麻紀っ！

二人、手を取り合い、女子高生の様な声を出す。

徹子　え？何で、どうして？どうしてあんたがこんな所に？ウソでしょ？何してんの？

シバ　知り合いか？

麻紀　さっき話した幼馴染。

シバ　あ～、猪八戒。

徹子　チョハッカイ？

麻紀　あああああっ、何でもない、何でもない。

徹子　全然変わってない。何年ぶり？

麻紀　１８年？いや、１９年ぶりかな？

徹子　そんなに経つ？

丈　あの、徹子さん？

徹子　何よ、うるさいわね。

丈　お昼には、事務所に戻るって言ってあるんですけど。

徹子　わかってるわよ。でもまだ全然時間あるじゃない。それよりボサッとしてないでお茶くらい出しなさいよ。

丈　え？お茶……？

徹子　（財布を出し）アイスコーヒー買って来て。２つ……あ、（シバへ）あなたも飲む？

シバ　へ？

麻紀　いいよ、テッちゃん。

徹子　いいからここは私に払わせて。（財布事渡し）コンビニのとかはやめてよ。スタバか、せめてドトールのにして。

麻紀　テッちゃん。

徹子　いいから。ホラ、早く行きなさいよ。

丈が、渋々といった感じで退場する。

徹子　……驚いた。ホント、夢見てるみたい。

麻紀　私も。

シバ　あんたは実際に夢で見たんだろ。

麻紀　黙ってて。

徹子　何？

麻紀　何でもない。

徹子　この人誰？もしかして……旦那？

麻紀　違う、違う。この人はここで暮らしてるホームレス。

徹子　は？ホームレス？冗談でしょ？わ、そういえばちょっと臭い、何あんたあっち行きなさいよ。（香水を振りかける）

シバ　わ、おい、よせ。

徹子　あれ？……え？……え、ちょっと待って、じゃあ昨夜、豊臣がここで……犯そうとした女って？

麻紀　……。

徹子　ウソでしょ？あの猿公。

麻紀　いいの。

徹子　良くないわよ。何だと思ってるの、事務所に戻ったらボッコボコにしてやるわ。よくも私の幼馴染を……。

間。

シバ　どうした？

徹子　……じゃあ昔、豊臣のＡＶに出た事のある女って？

麻紀　……。

ＳＥ：蝉

徹子　そっか……知らなかった。当然だよね。２０年近く会ってなかったんだもん。お互い……色々……あるよね。

麻紀　お兄ちゃんがね……。

徹子　いいよっ！……いい、あんたは何も言わなくていい。あんたは何も悪くない。悪いのはいつもあんたの家族だ。わかってる。

麻紀　（微笑み）相変わらずだね……テッちゃんは今、何してるの？どっかの偉い社長夫人？ごめん、化粧ポーチの中覗いちゃった。ブランドものばっかりで……ちょっと驚いた。

徹子　……私の事知らないの？

麻紀　え？

徹子　聞いた事ない？世紀のセクシー女優・曼荼羅ミツ子。

シバ　あるっ！（思わず口を押さえ）……え？あんた、曼荼羅ミツ子？

麻紀　テッちゃんは徹子よ。ミツ子なんて名前じゃない。
徹子　芸名よ。
麻紀　……芸名？
シバ　ホントだ。曼荼羅ミツ子だ。前より少し化粧が濃くなったけど。
徹子　大きなお世話よ。
麻紀　ごめんなさい、この人ちょっと口が悪くて。そっか……テッちゃんも、色々あったんだね。
徹子　……うん。それで？何やってるの？こんな所で。
麻紀　実は私も……私もホームレス。
徹子　え？
シバ　ちゃんと3週間限定と付け足せ。
徹子　3週間限定？
麻紀　色々……色々あってね。
徹子　お母さんは？
麻紀　え？
徹子　高三の時、あのクソ親父が死んで、一緒に暮らそうって言われたって、言ってなかったっけ？
麻紀　よく覚えてるね。もう大昔の事だよ。卒業する、ちょっと前だったっけ？
徹子　あれ以来あんた学校来なくなって、卒業式にも来なかったから心配で、家まで行ったんだよ。でも……もう空っぽだった。
麻紀　ごめんね。お兄ちゃんがね、一緒に暮らそうって言ってくれたの。東京で一人暮らししてたから。実の母親とはいえ、やっぱり、殆ど一緒に暮らした事のない人とはちょっと、ね……借金とかあったから、夜逃げみたいな感じになっちゃって。大学は出たんだよ。通信だけど、バイトしながら……それで……まぁ、色々あったんだけど、色々……色々……。
徹子　ごめん……もういいよ。わかった。行こう。
麻紀　え？

徹子　色々あった。それでいい。とにかく一度ウチへ行こう。ね？

麻紀　で、でも。

徹子　豊臣の事なら心配しないで。とっくに離婚して、今のウチへは一歩も上がった事ないから。

麻紀　離婚？

徹子　あ〜また余計な事言った。まぁ、そういうのもひっくるめてこっちは問題なしだから。

麻紀　……。

シバ　いいんじゃないか？この人なら事情もわかってるみたいだし、その、今現在のあんたが抱えてるしがらみにも無関係の様だし。

徹子　しがらみって？

シバ　それも詳しく聞いてやってくれ。

徹子　ＯＫ、じゃあとっとと荷物まとめて。

麻紀　テッちゃん。

徹子　ん？

麻紀　本当にいいの？……本当に、今更甘えて。

徹子　……ずっとあんたの事が、ひっかかってたんだよね。あの頃、私を救ってくれたのはあんただ。何があったかは知らないけど、今度は私があんたを救う番だよ。

麻紀　テッちゃん。

シバ　言った通りだろ？事情って奴は、簡単に捨てられるもんじゃない。むしろ……大切にするもんだ。

徹子　ホラ、早く荷物まとめて。どれ？このスーツケース？

シバ　あ〜あ、じゃあ俺は仕事へ出かけるか？今日はまだまだ気温が上がりそうだな。

麻紀と徹子が荷物をまとめ、シバが外を覗きながら伸びをする。
何度か聞こえなくなっていた蝉の声が再び大きくなる。
すると、シバが突然その場に倒れ、シンと静まりかえる。

麻紀　……え？

徹子　どうしたの、あの男。

麻紀　シバさん？どうしたんですか？……シバさん、しっかりして、シバさんっ！

徹子　ちょっと何ふざけてんのよ。そんな事したってウチには入れてあげないからね。

麻紀　テッちゃん、救急車。

徹子　え？

麻紀　お願い、早く。

徹子　冗談でしょ？

丈　お待たせしました、丁度すぐそこにタリーズコーヒーがあって。

丈が紙袋を下げ戻ってくる。

徹子　丈くん、どうしよう。なんかわかんないけど、突然コイツが倒れて。（携帯で１１９に連絡する）

麻紀　シバさん、しっかりして、返事をしてください。

丈　落ち着いて。頭をゆらしちゃダメだ。

徹子　もしもし、救急ですか？よくわかんないけど人が突然倒れて。

丈　貸して……（携帯を奪い）倒れたのは男性です。パッと見は４０代後半。脈はあります。汚れててよくわかりませんが、黄疸が見えなくもないとった感じで……はい、はい。ここの場所は……。

ゆっくりと暗転。

五　場

舞台はその日の夕方。
麻紀と信子が現れる。

信子　……肝性脳症？
麻紀　聞いた事ない？元は肝硬変とかからくる、脳の病気なんだけど。
信子　カンコーヘン？
麻紀　とにかく肝臓は、沈黙の臓器って言われてて。
信子　詳しいですね？
麻紀　あ……うん。
信子　え？で？それでその、元医大生っていう男の人が？
麻紀　うん、適切な処置をしてくれたおかげで……。
信子　ドラマみたいな話ですね。でも、どうしてそんな人が、アダルトビデオの助監督なんてやってるんでしょう？
麻紀　さあ。人には色々事情があるから。
信子　手術はしたんですか？
麻紀　（首をふり）まだ、そこまで悪い訳じゃないって言われて。
信子　え？でも倒れたんですよね？
麻紀　よくわかんないけど。とにかく手術には……最低でも１００万は必要だって言われて。
信子　あ～、なるほど。だから即手術には踏み切らなかったって事か。
麻紀　多分。私も苗字がシバって事以外は何も知らなくて。
信子　厄介ですね。身元調べて、もしも家族や親戚が見つかったとしても、引き取ってもらえないケースが多いみたいですし……。
麻紀　わかってる。ごめん、変な事に巻き込んじゃって。
信子　いえ、仕事ですから。でも良かったですね。

麻紀　うん。
信子　……え？
麻紀　え？
信子　あ、違いますよ。今のは、そのホームレスの事じゃなくて……幼馴染の方が、助けてくれるんですよね？
麻紀　あ～……うん。
信子　どこにお住まいなんですか？
麻紀　広尾？
信子　わ～、お金持ち。
麻紀　荷物まとめたら、すぐに出て行くから。
信子　いいな。
麻紀　ありがとう、ノブちゃん。色々、ホントに……。
信子　いえ。
麻紀　あ、コレ、鍵。それと携帯電話。（ポケットから出す）どっちも結局、使わなかったけど。
信子　鍵は確かに。でも携帯の方はまだ、持っててください。
麻紀　え？でも……。
信子　出発の日、空港までお見送りに行きます。それまでは。だって、そうしないと、こんな所でお別れになっちゃいますもん。
麻紀　ノブちゃん。
信子　どんな人だろう……麻紀さんの幼馴染。麻紀さんが本当に、心を許せる人って。
麻紀　？……どういう意味？私、ノブちゃんにも心許してるよ。言ったじゃん。役所には、ノブちゃんしかいなかったって。
信子　でも教えてくれませんでしたよね？付き合ってた人。
麻紀　あ……それは……。
信子　まぁ、私の方も言ってませんでしたけど。でもだからそれを知った瞬間、私を遠ざけた。

麻紀　遠ざけてなんてないよ。
信子　それまでは、同じゾーンの人間だと思ってましたか？
麻紀　……え？
信子　違うか。私は麻紀さんより下のゾーンだ。麻紀さんより地味で、男性経験少なそうで、不幸そうに見える。麻紀さんは私をずっとそんな風に見てましたもんね。
麻紀　ノブちゃん？
信子　え……あれ？私、何言ってるんだろう。ごめんなさい。気にしないでください。
麻紀　気にするよ……どうしたの突然？
信子　ごめんなさい。ちょっと……最近、仕事が忙しくて。

ＳＥ：信子の携帯電話が鳴る。

信子　あ、課長からだ。
麻紀　え？
信子　九里品さんです。
麻紀　クリシナ……？（思わず背を向ける）
信子　（出て）もしもし……はい……はい。あ、すみません。ちょっと今外で……すぐに戻ります。はい……あ、ちょっと待ってください。（電話の口を塞ぎ、麻紀へ）喋りますか？
麻紀　な？……何言ってるの？バカ言わないで。
信子　冗談です。（電話に）もしもし、すみません……はい。すぐに戻ります。（切る）
麻紀　……ノブちゃん？
信子　だから冗談ですって。でも……オカシイんですよね、課長。まるでここに、麻紀さんがいるの知ってるかのようで。
麻紀　え？どういう事？
信子　市議会から、ここの公園の取り壊し、早く進める様要請がきて

るんですけど、課長、頑なに拒否してて……。

麻紀　……。

信子　まぁ何か、他に理由があるんだと思いますけど。（携帯電話を指し）じゃあ、出発が決まったら絶対に連絡くださいね。それまで、お元気で。

信子が出て行く。

間。

麻紀　（信子の出て行った方を見つめ）……時雄さん。

豊臣　元カレか？

麻紀　え？

女子トイレから鼻に包帯をした豊臣が現れる。

麻紀　きゃあっ！

豊臣　あ、おいバカ、騒ぐな。

麻紀　ノブちゃん、ノブちゃん助けて、ノブンンンン～（口を塞がれ）

豊臣　し――――っ、しっ、しっ、おとなしくしろ。

と言われても暴れる、麻紀。

豊臣　落ち着け、落ち着けって、もう別に、襲ったりしねぇから、安心しろって。（麻紀に手を噛まれ）アイタタタタ。

麻紀　（豊臣から距離をとり）……信用できません。

豊臣　な、この野郎……ったく、勝手にしろ。

麻紀　出てってください。

豊臣　……。

麻紀　何してるんですか？早く出てって……。

豊臣　徹子はどうした？

麻紀　え？

豊臣　お前の幼馴染だよ。ここに来ただろ。徹子と丈。

麻紀　知りません。

豊臣　知らバックれても無駄だよ。そこ（女子トイレ）に仕掛けたカメラに、盗聴器つけておいたんだ。

麻紀　え？

豊臣　お前とあのホームレスの本番でも録音して、ゆすってやろうと思ってたのに。まさかあいつらが、デキてるとは……。

麻紀　もう……もうちゃんと離婚したって、言ってました。

豊臣　だから何だよ。

麻紀　だからテッちゃんが、テッちゃんが誰とデキていようと、関係ないと思います。

豊臣　部外者が偉そうな事言ってんじゃねぇよ。お前だってフラれた男に、いつまでも未練タラタラじゃねぇか。

麻紀　一緒にしないでください。

豊臣　一緒だよ。（麻紀を真似て）「時雄さん……」（笑い）今時朝の連ドラでも聞かねぇぞ。

麻紀　うるさい、黙れ。

豊臣　お～、勇ましいね。で？徹子はどうした？

麻紀　知らないって言ってるでしょ。

豊臣　ここで待ってりゃ戻ってくると思ったが、一足先に家に戻ったか？広尾だったな。おおよその場所はわかってる。ま、丈に聞けば一発だけどよ……一緒に行くか？

麻紀　ふざけないで。

豊臣　後から追いかけてきても同じ事だぜ？

麻紀　どうするつもりですか？

豊臣　どうするって、そりゃまあ……。

そこへフラフラのシバが、ビニール袋を下げ、戻ってくる。

麻紀　……ウソでしょ？シバさん？どうして？何してるんですか？

シバ　（息も切れ切れに）あんたこそ、どうしてまだ、ここにいる？

豊臣　（笑い）入院費払えなくて抜け出してきたか？ホームレスのくせに意外とガッツがあるじゃねぇか。でも、あと一蹴りしたら、死んじまいそうだな。

麻紀　やめてっ！（シバを抱え）病院に戻りましょう。

シバ　離してくれ。

麻紀　シバさん！

シバ　あんたには関係のない事だ。とっととここから出て行け。

豊臣　お～い、悪いが俺はこんな痴話ゲンカに付き合ってる暇はねぇ～からよ。先に行くぜ。

麻紀　……。

シバ　行くんだ。

豊臣　あ、そうだ。また出演したくなったら、いつでも連絡くれよな、ＡＶ（名刺を投げ）じゃあな。

豊臣が出て行く。

シバはビニール袋から弁当を出し、またアルミの皿に移す。

麻紀は迷った挙げ句、信子から借りた携帯電話を出し、手に書いた番号（麻紀の電話番号）を押す。

麻紀　……もしもし、私、麻紀。ごめんねテッちゃん、ちょっと、すぐには行けない事情ができちゃって。（豊臣の名刺を拾う）

シバ　？

麻紀　……それはその、また会ってから話すよ。うん、うん……あり

がとう……ああ、それとね、今あの男がここへ来て……そう、それでね、テッちゃんと彼の関係がバレちゃって……うん。そっちに向かったから気をつけて……わかった。また連絡する。

電話を切った麻紀が、シバを手伝い始める。

シバ　……変わった女だ。

麻紀　いるいるこんな女、の間違いじゃないですか？

シバ　フン。（横になる）

麻紀　事情を大切にしろって言ったのは、あなたです。

シバ　俺をあんたの事情に巻き込むな。

麻紀　巻き込まれたのはこっちです。

シバ　何をっ！（咳き込む）

麻紀　……手術、１００万かかるって言われました。

シバ　そんな金、ある訳ないだろ。

麻紀　もしも……もしも用意できたら、手術、してくれますか？

シバ　はあ？（麻紀の手に握られた、豊臣の名刺を見る）あんたバカか？あんたホントに……筋金入りの重い女だな。

麻紀　死ぬかもしれないんですよ？

シバ　それが何だ……あんたにゃ関係ない。

麻紀　……父が同じ病気で死にました。

シバ　だから何だ？

麻紀　あの頃は私、まだ子供で……何もしてあげられなくて。

シバ　クソ親父じゃなかったのか？

麻紀　クソでしたけど……たった1人の父でした。

シバ　フン、幸せなクソ親父だ。

麻紀　ご家族、いらっしゃらないんですか？

シバ　俺は何も喋らんと言った筈だ。

間。

シバ　いねぇよ……今更俺を迎え入れてくれる家族なんて。

麻紀　調べてみなければ、わかりません。

シバ　わかるんだよ。調べなくても……俺にはわかる。

麻紀　……どうして？

シバ　どうして？……家族だからだ。バカな兄貴がいるって言ってたな。だったらどうしてそいつに電話して、助けてくれって言わない？わかってるからだろ。どうせ迎えにきてくれたとしても、また利用されるって、わかってるからだ。

麻紀　……。

シバ　母親はどうした？どうして母親に連絡しない。

麻紀　そ、それは……。

シバ　聞かなくても見当はつく……そもそも母親が出て行った原因はその死んだクソ親父にあるんだ。浮気とかそういった、色恋沙汰じゃないな……酒に酔って暴れるか。それか極度のＤＶだ。だから命の危険を察知して、母親は逃げた。いや待てよ。そんなことで母親が、子供二人を置き去りにして出て行くだろうか？……あ～、なるほど、男がいたな。母親には親父より若くて心優しい男ができたんだ。それで何度となく子供達に対し、そいつと一緒に暮らそうと持ちかけた。だが、子供達は断固拒否した。特に兄貴の方が、そんな淫乱な母親を許す事ができなかったんだ……やがて時は経ち、母親と過ごした日々も忘れかけていた頃、父親の葬式でバッタリ再会。抑えていた感情が溢れ出したあんたは、自分一人だけでも母親と暮らそうと考えた。しかし……バカ兄貴に阻まれた……あんたに俺の何がわかる？助けてくれと叫べば、まだ手を差し伸べくれる人のいるあんたに？

麻紀　……。

シバ　知ってるんだろ、母親の連絡先。電話するんだ。

外に弁当を移した皿を持っていく。

麻紀　私にはもう、テッちゃんがいます。

シバ　彼女には彼女の事情がある。

麻紀　母にだってあります、きっと。２０年近く連絡も取ってない娘から、突然電話がきたら困りますよね？

シバ　そんな事はない。親は違う。親だけは……。

麻紀　え？

ＳＥ：猫

シバ　親は特別な存在だ。生まれた瞬間から死ぬまで、いや死んでも一生子供の事情に巻き込まれる存在なんだ。そりゃ最初は戸惑うかもしれないが、きっと嬉しい筈だ。だから……。

麻紀　……。

シバ　……フン、男に逃げられる訳だ。全部全部背負ったまま、男の背中に乗ったんだろ。この人なら大丈夫。この人なら自分の全てを支えてくれると勘違いして……いるいる、こんな女。はは……だけどな、重いぞ～。人一人の人生ってのは、計り知れない程重い。でも男はバカだから背負ってやろうと思っちゃうんだよな……いるいる、こんな男。それで結局背負いきれなくて……逃げ出して、帰る場所を失って……捨てられたんじゃない、捨てたんだなんてカッコイイ事言って……。

いつの間にか降り出した夕立が、激しさを増す中、麻紀は誰かに電話をかける。しかし相手は出ない。やがて電話を切り、その場にしゃがみ込み、壁にもたれて眠る。

六　場

舞台は麻紀の夢の中。
八戒と沙悟浄が現れる。

八戒　ホラ、もう何してるの？早くして。

沙悟浄　ちょっと待てよ、そんなに引っぱらないで……もう、一度落ち着こう……。

八戒　落ち着いてなんていられない。あのサルに、アタイ達に関係がバレちゃったのよ？グズグズしてたら殺されちゃう。早く逃げなきゃ。

沙悟浄　どうして逃げなきゃならないんだ？よく考えてみろよ、俺達は何も悪い事なんてしてない。俺はチャーシューが大好きでメス豚が大好きだ。だから君が好きなんだよ。

八戒　あん♡嬉しい。でも言ったでしょ？アタイは、元はあのサルのメス豚なんだ。

沙悟浄　それが何だ？今は僕のメス豚だ。

八戒　そんな理屈が通じるようなサルじゃないのよ。

悟空　よくわかってんじゃねぇか。

悟空が現れる。

沙悟浄　兄貴？

悟空　何が兄貴だ、このカッパ野郎。

揉み合う二人。

八戒　やめて。ケンカをやめて、二人を止めて、アタイの為に争わないで、もうこれ以上。（二人を引き離す）

悟空　……どうするつもりだ？
沙悟浄　何がだよ？
悟空　これからの事だよ。まさかここまで来て旅を降りるなんて言わないだろ～な。
沙悟浄　そんなつもりはねぇよ。できる事なら、今まで通り、三人で旅を続けたい。
悟空　そんなの無理に決まってるだろ。
八戒　どうしてよ、あんたが我慢すればいいだけの事でしょ。
悟空　ふざんけなっ！（八戒を引っ叩く）
八戒　きゃあっ！
沙悟浄　乱暴はよせ。
悟空　どうしてオイラが我慢しなくちゃならないんだ。
八戒　じゃあ……じゃあ一体どうしようって言うのよ？
悟空　……三人で結託してよ、あの坊主、殺っちまおうぜ。
沙悟浄　な。
八戒　ぼ、坊主って、お師匠様の事かい？
悟空　でけぇ声出すんじゃねぇよ！……ずっと目障りだったんだ。コイツ（頭についてる輪っか）も力づくじゃ取れねぇしよ、だったらいっその事、ヤツを殺っちまうしかないだろ。でもそれにはお前ら助けが必要だ。
八戒　交換条件て訳ね。
沙悟浄　でもそれじゃ……天竺への旅は？
悟空　キン斗雲でひとっ飛びだ。そこで三人でひと暴れしてよ、金銀財宝を頂いて終了って寸法だ。
八戒　悪くない。
沙悟浄　しかし、お師匠様を相手に、果たして上手くいくだろうか？
悟空　ビビってんじゃねぇよ。
八戒　そうよ。

悟空　（腰に下げた竹筒を出し）ここに炎駆（えんく）の聖水が入ってる。

八戒　炎駆？

沙悟浄　炎駆って、あの幻の赤い麒麟の事か？

悟空　ああ。

八戒　でも聖水って、小便の事だろ？

悟空　無味無臭、色だって透き通るように透明だ。俺達妖怪にはその辺の水となんら変わりはない。ところが人間にとっては、猛毒。

沙悟浄　じゃあ、それを……。

三蔵法師　何をしているのですか？

三蔵法師が現れる。

八戒　お、お師匠様？

沙悟浄　あ、いや……我々はその、別に……。

悟空　景色を……景色を眺めていただけにございます。

三蔵法師　ほぉ景色を。確かに美しい。思えば随分と遠くへ来たものです。

悟空　先程、山の裾野の湖で、冷たい水を汲んできました。よろしければ。

三蔵法師　湖？はて……そんなもの、ありましたか？

八戒　わ、わ～、わ～、いいな、いいな、兄貴、アタイにもおくれよ。

沙悟浄　俺も、俺も。

悟空　お、おい、お前達……ははは、全く敵いませんな。

二人が竹筒を回し飲みする。

八戒　ひゃ～、冷たくて美味しい。

沙悟浄　……生き返る。最高だ。
悟空　ささ、お師匠様も、是非。
三蔵法師　そうか……では、頂くとしよう。

三蔵法師が口にしようとした瞬間、目を開けた麻紀がそれを奪う。

麻紀　飲んじゃダメっ！
沙悟浄　あ！お、お前は……。
八戒　あの時のメスの人間。
麻紀　時雄さん、この中に入ってるのはお水なんかじゃない。赤い麒麟のお小水よ。
悟空　おい……何デタラメ言ってんだ。
麻紀　妖怪には無害でも、人間にとっては猛毒の飲み物。私、私、全部聞いていたんだから。
三蔵法師　私の弟子達がそんな事をする訳がない。
八戒　そ、そうよ、そうよ。
悟空　そいつを返せっ！

悟空が麻紀に襲いかかろうとした瞬間、麻紀がそれを飲み干す。

八戒　あ、バ……バカ。
沙悟浄　何やってるんだ、死んじまうぞ。
麻紀　うっ……（苦しみ始め）こ、これが証拠です。
悟空　なんて重い女だ。

すると三蔵法師が経を唱える。

悟空　ギャアアア。（頭を押さえ）痛い、イタタタタ。

沙悟浄　兄貴っ！

八戒　ごめんなさいお師匠様、アタイ達はやめようって言ったんだよ。でもこのサルが……。

悟空　おい、汚ねぇぞ、ウアアア……勘弁してくれ、お師匠様。オイラが悪かった。つい……つい出来心で……アアアアアッ！

悟空を先頭に、三人が退場する。

三蔵法師　（経を止め、麻紀へ）大丈夫ですか？すぐに医者に見せましょう。私の背中に乗ってください。

麻紀　いけません。私は重い女ですから、あなたには支えられません。

三蔵法師　そんな事ありません。さぁ、早く。

麻紀　私……私昔、ＡＶに出た事があるんです。

三蔵法師　え？

麻紀　兄に騙されて、借金の肩代わりに一度だけ。父はアル中でＤＶ、母は若いを男作って出て行っちゃいました。父のお葬式の時、再会した母は……小さな男の子を連れてました。その時、母には母の事情があるのだと知りました。でも他に、頼る人がいなくて……。

三蔵法師　引くわ～。

麻紀　……え？

三蔵法師　引く。そういう重い話。確かに私には支えられません。（退場）

麻紀　待って、時雄さん。お願い、私を捨てないで……うっ、苦しい。誰か助けて……苦……しい。

ゆっくりと暗転。

（この間、シバは放置？）

七　場

舞台は夜。
薄暗い中、私服姿の信子が麻紀を抱き、水をあげている。

麻紀　（うなされながら）……苦しい……誰か、誰か助けて……死んじゃう、このままじゃ私……（目を覚ます）あ、あれ？

信子　大丈夫ですか？

麻紀　ノブちゃん？……あれここは？……良かった。夢か。私、寝ちゃったんだ。

信子　なんとなく、嫌な予感がして。やっぱり来てみて正解でした。脱水症状ですよ。こんな暑いのに、ちゃんと水分を摂らないから。

麻紀　シバさんは？

信子　……。

麻紀　ねぇ、シバさんはどこ？

信子　……追い出しました。

麻紀　？？追い出した？

信子　ここは市の公共施設です。

麻紀　病人なのよ？

信子　せっかく入れてあげた病院を抜け出した男です。事情はどうあれ、役所ではこれ以上救いようがありません。

麻紀　ノブちゃん！

信子　麻紀さんも同じです。これ以上勝手な真似をされるなら、携帯電話、返してもらいます。

麻紀　……別に……別に私は、最初から携帯電話なんて……。

信子　（鼻で笑い）使ったくせに。

麻紀　……え？

信子　もうかけてこないでください。もう彼は……私のモノですから。

間。

麻紀　どういう事？

信子　……家に帰って、夕食の準備してたんです。そうしたら彼の携帯電話が鳴って。でも知らない番号からだって彼が言って、見せてくれたんです。電話、しましたよね？妹の携帯電話から、時雄さんに。

麻紀　ウソ……ウソでしょ？

信子　最初はちょっぴり後ろめたい気持ちもありました。けど、麻紀さんがあんまり鈍感だから逆にイライラしてきちゃって。電話、何の用だったんですか？まさか広尾のマンションに呼び出して、もう一度やり直そうって言うつもりだったんですか？

麻紀　そ、それは……。

信子　（右手の婚約指輪を見せ）言っときますけど私達、もう婚約してますから。

間。

麻紀　……どうして？……なんで教えてくれなかったの？それならそうと言ってくれれば……。

信子　あなたに教える必要なんてありません。穢らわしい過去を持つ、あなたなんかに。

麻紀　そんな言い方しないで。

信子　私達別に、そんなに仲良くなかったですよね？お互い住んでる所も知らないし、たまに食堂で、安いランチ奢ってくれたくらいで……。

麻紀　ノブちゃん。

信子　でも私、見ちゃったんですよね。ある日、麻紀さんが役所の裏の自転車置き場で、男の人にお金渡してるの。

麻紀　え？

信子　最初は彼氏か何かだと思ってたんですけど、だんだん興味が湧いてきちゃって、いけないとわかっていながら調べちゃいました。お兄さんだったんですね？

麻紀　……。

信子　そこでお兄さんの事も調べました。そしたらネットで、まさかの情報が出てきて。

麻紀　え？……じゃあ……じゃあ、あの時の掲示板のビラは……。

信子　どうですか？下のゾーンからの攻撃。効きましたか？

麻紀　そんな……。

徹子　やだ、ちょっとまたウンコ踏んじゃった。

丈　何やってるんですか、も～。

徹子　ちゃんとこっちに明かりあててよ。

丈　あててるじゃないですか。

徹子　麻紀～、いる～？いないの～？麻紀～。

携帯電話のライトを頼りに、徹子と丈が現れる。

丈　あ。

徹子　いた～、やっぱりまだここだったのね。なかなか連絡が来ないから心配したのよ。あら？誰、この女。

信子　良かったですね。丁度お迎えの方がいらっしゃいましたよ。

丈　気をつけてください、徹子さん。こいつですよ、豊臣さんの鼻へし折ったの。

徹子　へ？

信子　あなたが麻紀さんの幼馴染？……へ～、意外。同じゾーンには見えないけど。

徹子　ゾーン？

丈　急ぎましょう。豊臣さん、絶対に追いかけてきますよ。
信子　あなたが元医大生？
丈　え？ああ、まぁ……。
信子　それがどうして、アダルトビデオなんかの助監督をやってるの？
丈　あ～、いや、それはその……。
徹子　ちょっと、何よ？〝なんか〟って。
信子　は？
徹子　アダルトビデオ〝なんか〟ってどういう意味よ？
丈　徹子さん。
信子　あ～なるほど。あなたもそっちの世界の方ですか。納得。
徹子　は？
信子　（麻紀へ）同じゾーン。
徹子　何コイツ、なんかムカつくんだけど。
丈　立っちゃうんです。
信子　……え？
丈　お医者さんて、どうしても患者さんの裸を見なきゃならないじゃないですか。でも俺、裸見たら、立っちゃって、仕事にならなくて。だから、どうせ立つならこっちの方が向いてるかなと思って。
信子　……変態。
徹子　はあ？ちょっと何言ってんのよ。あんただって興奮したら濡れるでしょ～がっ！
丈　いいんです。
徹子　よくないよ。
丈　いいんです。自覚してますから。変態。さあ行きましょう。（麻紀へ）あなたもホラ、急いで。

そこへ懐中電灯の明かりが射し込む。

徹子　誰か来た。

丈　マズイ、豊臣さんかも……隠れて。

九里品時雄が現れる。

九里品　信子？……いるのか？信子。

信子　と、時雄さん？

麻紀　時雄……さん？（背中を向ける）

九里品　信子、何してるんだ、こんな所で。

信子　時雄さんこそ、どうして？

九里品　僕は君が心配で、後を追いかけて来たんだ。こんな夜遅くに出かけるなんて、オカシイだろ？そしたら、こんな所に入っていくから……暫く外で待ってたんだけど、妙な男女の二人組が入っていくのが見て。

麻紀　私達の事？

九里品　何をしてるんだ、こんな所で。この人達は一体……？

信子　どうしますか？

麻紀　（背中がビクッとする）

信子　久しぶりのご対面といきますか？

九里品　ご対面？何の事だ？

信子　実はコレ、時雄さんへのサプライズなんです。

九里品　サプライズ？

信子　もう半年も前の事だから、忘れちゃったかもしれないけど、この人……。

徹子　クリオ？

丈　……へ？

九里品　え？

徹子　あなた、クリオじゃない？少し老けたから感じがかわっちゃったけど、チョコモナカ・クリオ。

丈　チョ、チョコモナカ・クリオ？……って、あの伝説のＡＶ男優？

麻紀　ＡＶ男優？

信子　な、何言ってるんですか、突然。この人は市役所の……。

徹子　クリオ、私よ。覚えてない？ミツ子。

九里品　ミ……ミツ子？……え？ミツ子ってあの、曼荼羅？あっ！（口を押さえる）

徹子　やっぱりクリオだ。なんてサプライズなの？キャ～、懐かしい。（抱きつく）

信子　ちょっと何やってるんですか、離れてください。

徹子　何よ、私達１００回くらいＳＥＸした仲よ。

信子＆麻紀　はあ？

徹子　ね～？

九里品　ち、違う違う、きっと他人の空似だ。僕はそんなＡＶ男優なんかじゃ……麻紀？

麻紀　……。

九里品　どうして……君が、ここに？

徹子　え？あれ？何？もしかして麻紀が撮影した時の相手もクリオだったの？

九里品　違う、あっ！（口を押さえる）

丈　流石伝説の５０００人斬り。

九里品　だから違うって言ってるだろ。それにたった１年でそんなにやれる訳が、あっ、あっ！（口を押さえる）

徹子　で？何？……今はこの女（信子）が彼女って訳？じゃあ、あれだ。私達三人姉妹じゃん。（下品に笑う）

丈　徹子さん、誰も笑ってませんよ。

間。

信子　……ウソだよね？そんな、時雄さんがそんな……ＡＶ……。

徹子　ウソじゃないよ。（腰を振り）んも～凄かったんだから。

丈　徹子さん。

九里品　ここで……ここで一体何をしてる？

徹子　説明すると、ちょっと長くなるかな。簡単に言うと、みんな神様（シヴァ神像を拝み）に誘われちゃった感じ？

九里品　……。

徹子　市役所で働いてるの？意外。あんだけ稼いだんだからもっと優雅な暮らししてると思ってたのに。あ……そうか。その金で過去を消したんだ。

九里品　黙れっ！

信子　時雄さん、私……私……。

九里品　こんな事になるなら、追いかけてこなければ良かった。

間。

九里品　（麻紀へ）ボランティアで、インドに行ったって聞いてたけど。

麻紀　……うん……でもそれが、色々あって。

九里品　１つ、誤解を解いておきたい事がある。僕はあの時、君を捨てた訳じゃない。僕は……僕は自ら逃げ出したんだ。

麻紀　え？

信子　何を言ってるの、時雄さん？

徹子　なるほどね……麻紀の過去が暴かれた次は、きっと自分が吊るし上げられる。だから……。

九里品　確かにそれもある。それもあるが、違う。僕は……僕は辞表を出しにきた麻紀に、何も声をかけてやれなかったんだ。僕は……僕はそんな自分が嫌になって……。

麻紀　……。

徹子　え？……いやだからやっぱりそうなんじゃない、結局は自分を守る為に逃げたんでしょ？

九里品　そうじゃない。わからないかな？このニュアンス。僕は麻紀を、守れなかった自分が嫌になって逃げ出したんだ。自分が吊るし上げられる事なんて、なんとも思ってない。

徹子　わ～。

九里品　なんだ？

徹子　いるいるこういう男。面倒クサッ。

九里品　はあ？め、面倒くさいとは何だ？

徹子　じゃあどうするの？今度ばっかりはこっちの女（信子）には知れちゃったよ。あんたの過去。

信子　え？

徹子　黙ってて～って土下座する？それともまた面倒くさい理由くっつけて逃げ出す？

九里品　そ、それは……。

徹子　（九里品の耳元で）大変よ～、この手の女は。もの凄く重いからね。

九里品　……す、すまない、信子。とにかくまずは一度、ちゃんと話し合おう。

信子　逃がさない。

九里品　え？

信子　私は絶対に逃がさないから。どんな事があっても……。

駆け出す九里品の背中に飛び乗る信子。
首を絞める。

九里品　うっ……く、苦しい。
麻紀　ノブちゃん、落ち着いて。ノブちゃん。
信子　言ってくれたよね？私の事、一生大切にするって。言ってくれたよね？
九里品　あっ……うがっ。
丈　ちょっと、死んじゃいますよ。手を離して。
麻紀　ノブちゃん。
徹子　や～ね重い女って。でもいるいる、こういう女。
信子　うるさいっ、ブス。
徹子　はあ？誰に向かって言ってんのよ、この地味女。
丈　ちょ、ちょっと徹子さんまで、落ち着きましょう。
麻紀　テッちゃん！

首を絞められた九里品を中心に、グルグルとてんやわんやの様相。
そこへ包丁を持った豊臣が現れ、丈の背中を刺す。

麻紀　きゃあああっ！
徹子　え？……何？
丈　と……豊臣さん？
豊臣　お前が悪いんだぞ……お前が俺裏切って、こんな女に手出すから。

丈がその場に崩れ落ちる。
その拍子に信子も九里品を離し、おののき後ずさり。

徹子　（丈を抱き）丈？しっかりして、丈っ！……ちょっと、何ボサっとしてるのよ、早く救急車呼んで。
麻紀　あ、う、うん。（携帯電話を出す）

徹子　何考えてんのよ、あんた。

豊臣　丈は……丈は俺のもんなんだよ。

徹子　え？

豊臣　俺だけを愛してくれてればそれで良かったんだよ。それなのに（その場にしゃがみこみ）どうしてお前みたいな、女なんかに……どうして。

麻紀　もしもし、救急ですか？あの……今……目の前で人が刺されて。はい、男性です。男性が男性を刺して……。

丈　いるいる。

麻紀　え？

丈　いるいる、こんな女……いるいる、こんな男……。

ゆっくりと暗転。

八　場

舞台は数日後の朝。
シバが荒れたトイレの中を片付けている。（麻紀の荷物はシヴァ神像以外、残っていない）
ある程度片付いた所で、麻紀と徹子の声が聞こえ、シバは慌てて女子トイレの中に隠れる。

麻紀　え？じゃあ、あの豊臣って人に会いに行ったの？
徹子　仕方ないじゃない。一応、元妻だし、他に身内なんていないし。
麻紀　どのくらい入る事になるのかな？刑務所。
徹子　う～ん、裁判してみないとわかんないけど。回復待って、丈の話も聞いてみないと。
麻紀　テッちゃんもしかして、二人の関係知らなかったの？
徹子　知る訳ないじゃん。てっきりノーマルだと思ってたのに。私、あの二人とも姉弟って事になるのかな？
麻紀　ちょっと複雑だね。
徹子　ね？
麻紀　あ、あったあった。（シヴァ神像を手にして）コレを忘れちゃマズイよね。
徹子　それがシヴァ神？
麻紀　うん。
徹子　へ～、なんかＴＨＥ・インドって感じね。
麻紀　どこ行っちゃったのかな……シバさん。
徹子　え？
麻紀　あ、あのホームレスの人。シバさんていうの。私、あれから役所で徹底的に調べたんだ、あの人の事。
徹子　それで？何かわかったの？

麻紀　うん……家族がいた。

徹子　そう……え？まさか会いに行ったりしてないよね？

麻紀　流石にそこまでは……でも、電話しちゃった。

徹子　ウソでしょ？

麻紀　ほんの一瞬だけど、病院に入院して、救急車も利用したから、報告しない訳にはいかなくて。

徹子　お役所だね～。あれ？でもあんた役所辞めたって……。

麻紀　時雄さん……あ、生活課の課長が、任せるって言ってくれて。

徹子　あいつまた逃げたの？ホント、ダメな男。

麻紀　……女の子が出たの。小学生。市役所の生活課だって言ったら、すぐに察知したみたいですぐに……パパはどこにいるんですか？パパは生きてますか？って……お母さんとすぐ替わっちゃったんだけど。

徹子　それで？

麻紀　（首を振る）

徹子　……そうか。

麻紀　でもここの場所は伝えた。今は行方をくらましてるけど、この公園で暮らしてるって。そうしたら……。

徹子　そうしたら？

麻紀　ここ、娘さんとよく、遊んだ場所なんだって。滑り台やブランコ……それと（アルミの皿を手にとり）お母さんに飼っちゃダメだって言われた子猫に、こっそり餌をあげにきてた公園なんだ……って。

徹子　どうなっちゃうの？ここ。

徹子　取り壊される。いつになるか、まだハッキリしないけど。時雄さんが反対してるらしくて。

徹子　……あいつ……捨て子なんだよね。

麻紀　え？

徹子　忘れてたんだけどさ、昔一度だけ、二人で飲みに行った事があってね。もの凄く酔っぱらって、泣きながら話してくれたの。

自分には親がいない。公園に置き去りにされて、泣いていたのが一番最初の記憶だって。

麻紀　公園？

徹子　うん。

麻紀　え？……じゃあまさか。

徹子　よくわかんないけどね。

麻紀　……そう。

徹子　うん。誰だって1つや2つ、隠しておきたい過去があるんだよ。でも（お腹を撫で）この子には何も隠さない。私は堂々と自分の過去を話すつもりよ。

麻紀　お父さんの事も？

徹子　もちろん。あ～でも元医大生でバイセクシャルか。ちょっと理解するまで時間がかかるかなぁ。

麻紀　結婚は？しないの？

徹子　わかんない。だって稼ぎだってまだ殆どない訳だし……あ、そうだ。（お腹を触り）この事、当分秘密にしておいてね。事務所にも内緒で産もうと思ってるの。

麻紀　どうして？

徹子　子供できちゃうと、仕事減っちゃうのよ。

麻紀　（笑う）

徹子　何？

麻紀　全然堂々と話せる過去じゃないね？

徹子　今はね。でも今だけよ。将来はきっと、笑って話せるわ。

麻紀の携帯電話が鳴る。

麻紀　（携帯を出し）メールだ。

徹子　え？あ、携帯。新しく契約したの？

麻紀　うん。今さっき。このメールもホラ、携帯会社から。
徹子　インドは？
麻紀　……やめる事にした。
徹子　……そう……でも……やめてどうするの？あ、いいのよ。全然、ウチに居てもらって。全然構わないんだけど。
麻紀　実はね……お母さんに、連絡してみようと思って。
徹子　……え？
麻紀　お母さん……最初は戸惑うかもしれないけど、喜んでくれるんじゃないかと思って。

女子トイレの中からガタッと音がする。

徹子　誰？
麻紀　シバさん？

ドアを開けると、そこには誰もいない。
しかし、麻紀の財布が落ちている。

麻紀　誰もいない……あれ？
徹子　どうしたの？
麻紀　これ……この財布、私の。（中を確認）
徹子　ウソ。
麻紀　どうしてこんな所に？

ＳＥ：猫

徹子　猫だ。見て、かわいい。

麻紀　……私……お弁当買ってくる。

徹子　え？

麻紀　この子に餌あげなきゃ。ちょっと待ってて。

徹子　ちょ、ちょっと麻紀？

麻紀が太陽の光に輝くシヴァ神像に気づく。

麻紀　ねぇ、テッちゃん西遊記って知ってる？

徹子　へ？西遊記？西遊記って……あの……猿と豚とカッパが、夏目雅子と、星の入った７つのボールを……。

麻紀　全然違う。昔ね、お母さんが寝る時によく話して聞かせてくれたんだ。昔々、唐の国に玄奘三蔵という偉いお坊さんがいました……。

笑いながら二人が退場する。

おわり